

## タイトル

ゴージャスお宝鑑定家〜う〜ん、ゴージャス〜」24

## 登場人物

- 剛田…剛田質店の店主。ゴージャスな品物にしか興味を示さず、すべてにおいて優雅であることを追求する鑑定士。常にハイテンションで言動が大げさ。口癖は「ゴージャス！」
- 白金…剛田質店の見習い鑑定士。常識的で堅実。剛田の個性的すぎる振る舞いにいつも振り回されるが、どこか憎めない。
- お客…今回のお宝を持ち込んだ人物。やや怪しげな雰囲気を漂わせている。

## 第一幕

### シーン一：剛田質店の朝

（剛田質店の豪華な店内。シャンデリアが輝き、壁には金箔が施されている。白金が掃除をしている。）

白金…（ため息をつきながら）今日も剛田さんのゴージャスな感性に振り回される日が始まるのか…。本当にこの店、大丈夫なんだろうか。

（扉が優雅に開き、剛田が登場する。スーツ姿で、片手にはシルクのハンカチ、もう片方には金色のステッキ。）

剛田…（大げさに）おはよう、白金！今日も美しきゴージャスな一日が始まる！

白金…（控えめに）おはようございます、剛田さん。今日は普通…いや、ゴージャスなお宝が来るといいですね。

剛田…（胸に手を当て）ゴージャスにして普通な品など存在しない！覚えておきたまえ、白金！この店に来る品物はすべて選ばれし存在だ。

白金…（苦笑いして）ええ、まあ…（心の中で）また始まったよ。

（白金が掃除を再開する。剛田は壁に飾られた大きな鏡で身なりを整える。）

（そこへ、店のチャイムが鳴り響く。）

---

### シーン②…お客の登場

（お客が入ってくる。スーツの袖が少しほつれた、どこか怪しげな雰囲気を漂わせている。手には不自然に豪華な箱を抱えている。）

お客…（少し緊張した様子で）こちらで鑑定していただけると聞きました。

剛田…（箱を見て目を輝かせ）うくん、ゴージヤス！何という高貴なオーラ！早速、見せていただこう！

白金…（お客に丁寧）あ、こちらでお預かりしますね。

（お客が箱をテーブルに置き、中から奇妙な形をした青い物体が現れる。ラピスラズリ製の足つぼマッサージ器だ。）

剛田…（手を広げ）な、何と…この深い青！そして、この滑らかな曲線！これぞ…

剛田 & お客…（同時に）ゴージャス！

白金…（困惑しながら）いや、これ…足つぼマッサージ器ですよね？

剛田…（白金を一瞥）足つぼマッサージ器に見えるだと？白金、君の目は節穴かね？

白金…（戸惑いながら）いえ、確かにそう見え  
ますけど…。ただ、普通に実用品ですよね？

剛田…（無視して）この芸術作品がマッサージ  
器にすぎないはずがない！

（剛田がマッサージ器を手に取り、細部を鑑  
定し始める。）

剛田…（感嘆しながら）見よ、このラピスラズ  
リの輝き…そして、彫刻の繊細さ。この曲線  
はまるで、古代エジプトの神々の息吹を感じ  
させる！

白金…（小声で）いや、どう見ても最近のもの  
っぽいですけど。

剛田…（熱弁しながら）ラピスラズリ…その石  
言葉は『真実』『知恵』『永遠の美』だ！この  
青は夜空に煌めく星々を宿す色！これを足  
元に敷くなど、もはや贅沢の極みだろう！

白金…（冷めた表情で）いや、それでも足つば  
マツサージ器なんですよ。

剛田…（無視して石を撫でながら）ふむ、これ  
は試してみなければならぬ。

（お客が鑑定の詳細を聞きながら、剛田は  
さらに情熱的な語り続ける。）

---

## 第二幕

シーン…ゴージャスとは何か？

（白金が剛田に「ゴージャス」の定義を質問  
するシーン。剛田がゴージャス哲学を語る。）

白金…でも、剛田さん。ゴージャスって結局な  
んなんですか？

剛田…（真剣な表情で）白金、ゴージャスとは  
…心が震える瞬間を生み出すことだ！

白金…え、具体的には？

剛田…（身振り手振りで）それは、この輝き！  
この質感！そして、この物語だ！物が持つ歴  
史や作り手の魂が、見る者の心を捉える時、  
それはゴージャスになる！

白金…（呆れつつ）結局、剛田さんが好きかど  
うかだけじゃないですか…。

剛田…（うっとり）違うとも！私は真実の美  
を追求するだけだ！

（お客が不安そうな顔をする。）

お客…本当にそれ、ゴージャスなんでしょうか  
…？

剛田…（断言）間違いない！

---

シーン2：試してみる

（剛田が靴を脱ぎ、ラピスラズリ製の足つぽマッサージ器に足を置く。白金は呆れながら見守る。）

剛田…（感極まって）う、うおおおおお！これは…まさに天上の快感！足裏を押し上げるこの感触！まさに神々の手が私を撫でているようだ！

白金…（冷静に）ただのツボ押し効果ですよね。

剛田…（目を閉じて）黙りたまえ、白金。私の体が、宇宙と一体化しようとしているのだ。

（剛田が陶醉している間に、お客がそつと白金に近づく。）

お客…（小声で）これ、本当にそんなにすごいですか？

白金…（困惑しながら）いや、普通に効きそうですけど、そこまでじゃないと思います。



（剛田が急に立ち上がる。）

剛田…（大声で）決めた！この品は…80万円  
で買取る！

白金…（驚愕）え！？高すぎませんか！？

お客…（感激して）ありがとうございます！

剛田…（真剣に）この品が持つゴージャスさを  
考えれば、この価格はむしろ安いくらいだ！

白金…（ぼそっと）店、赤字にならないといいで  
すけど。

---

### シーン③：お客の背景

（お客が足つぼマッサージ器を手に入れた背  
景を語るシーンを挿入。）

お客…実はこれ、祖父の遺品なんです。祖父  
が世界を旅して見つけたもので…。

白金…（驚き）遺品！？なんでこんなものを？

お客…（微笑む）祖父は変わり者で…ただ、これを見るたびに祖父の話を思い出します。だから、ゴージャスだって言われると、ちょっと嬉しいですね。

（剛田が深く頷く。）

剛田…まさに物語のある品だ。これこそ、ゴージャスの真髓だ！

### 第三幕

シーン…エピソード

（夜、剛田質店の店内。明かりが消え、静まり返っている。しかし、一つの部屋から微かな光が漏れている。）

（剛田が深夜にこっそりと足つぽマッサージ器を使っている。）

剛田…（小声で）うゝん、やはりこの快感は唯一無二だ。このラピスラズリの青、私の魂に語りかけてくるようだ…。

（突然、ドアが開き、白金が入ってくる。）

白金…（一喝）剛田さん！何やってるんですか！？深夜にこんな…。

剛田…（驚きながらも気まずそうに）い、いや、これはだな…。

白金…（呆れた表情で）いい加減にしてくださいよ。明日もお客さん来るんですから、早く寝てください！

剛田…（しびしび）ふむ、まあ…仕方ない。

（剛田がマッサージ器を片付け、部屋を後にする。白金はその後ろ姿を見ながらため息をつく。）

白金…（小声で）ほんと、この店、大丈夫かな…。

（場面がフェードアウトし、画面に「ゴージャス！」のタイトルロゴが浮かび上がる。）

## エンディング

（剛田質店の看板が夜の光に照らされ、店内のシャンデリアが輝いている。）

ナレーション…こうして、剛田質店には今日もゴージャスな品が舞い込む。次回はどんなお宝が登場するのか！？乞うご期待！

## 尺割り

## 第一幕

### 1. シーン1: 剛田質店の朝 (約8分)

- 白金の日常描写、剛田の登場。
- コメディタッチで2人の対比を明確に描写。
- 店内の豪華な装飾や雰囲気の説明。

### 2. シーン2: お客の登場 (約12分)

- お客の怪しげな雰囲気とラピスラズリ製マッサージ器の登場。
- 剛田のゴージャスな石言葉解説。
- 白金の冷静なツツコミとの掛け合い。
- 剛田の熱弁が長め。

## 第二幕

- ### 3. シーン1: ゴージャスとは何か? (約10分)

- 剛田の哲学的な語り。
- 白金との漫才的やり取り。
- お客の不安や戸惑いを挟み、コメディ要素を増やす。

#### 4. シーン2: 試してみる(約15分)

- 剛田が実際にマッサージ器を試し、その「快感」に陶醉。
- 白金の的確なツツコミが続く。
- 剛田の大げさなリアクションと「宇宙と一体化」発言。
- お客が白金に小声で相談するシーンの追加。

- 剛田が買取価格を宣言。

#### 5. シーン3: お客の背景(約8分)

- お客がマッサージ器の由来や祖父とのエピソードを語る。
- 剛田が共感し、「物語のある品」として認定。
- コメディと感動をバランスよく。

### 第三幕

---

#### 6. シーン：エピローグ（約10分）

- 深夜の店内で剛田がこっそりマツサージ器を使用。
- 白金に見つかり一喝される。
- 2人のやり取りにさらに笑いを追加。

#### 7. エンディング（約5分）

- ナレーションによる締め。
- 次回予告的なフレーズで作品を終える。